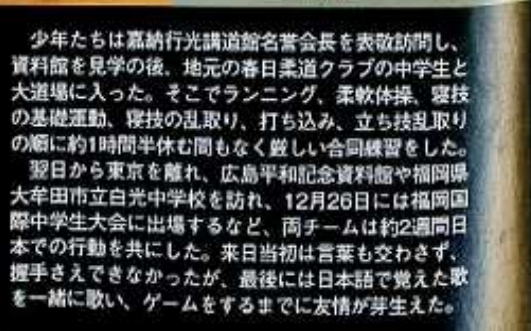




Judo For Peace

イスラエルとパレスチナの少年たちが日本で集う

撮影・文●和田直樹 photo & text by Wada Naoki



少年たちは嘉納行光講道館名誉会長を表敬訪問し、資料館を見学の後、地元の春日柔道クラブの中学生と大道場に入った。そこでランニング、柔軟体操、寝技の基礎運動、寝技の乱取り、打ち込み、立ち技乱取りの順に約1時間半休む間もなく厳しい合同練習をした。翌日から東京を離れ、広島平和記念資料館や福岡県大牟田市立白光中学校を訪れ、12月26日には福岡国際中学生大会に出場するなど、両チームは約2週間日本での行動を共にした。来日当初は言葉も交わさず、握手さえできなかったが、最後には日本語で覚えた歌を一緒に歌い、ゲームをするまでに友情が芽生えた。

と見つめていた。
柔道の聖地・講道館の同じ畳の上で汗を流す彼らの姿を、山下氏は「みんな同じ人間。柔道の『自他共栄』の精神を今回の滞在中に少しでも理解してほしい」と、じっと見つめていた。

が今回の招聘に結びついた。
柔道の聖地・講道館の同じ畳の上で汗を流す彼らの姿を、山下氏は「みんな同じ人間。柔道の『自他共栄』の精神を今回の滞在中に少しでも理解してほしい」と、じっと見つめていた。

昨年十二月二十日、イスラエルとパレスチナの中学生二三名が、東京・講道館で日本の中学生と合同練習を行った。



「皆様のおかげで当NPOが掲げる3つのキーワード、平和・友情・柔道を実践でき、期待以上の成果があった」と山下理事長